



美しい花で心がほっこりしますように

花ボランティア活動

6月4日、町が行っている花植えボランティアの活動に多くの人に参加し、町内数か所にある花壇には、夏から秋に咲くマリーゴールドやベゴニアなど、3種類の花の苗が植えられました。マリーゴールドは濃いオレンジ色の八重咲き花をつけ、夏を元気に彩ります。浜口交差点前の花壇で花植えをした人は「ここは遠賀町や岡垣町から芦屋町への入り口になるのできれいな花で皆さんを迎えたいです」と話していました。



科学の力って不思議でおもしろいね

芦屋町子どもと大人の科学フェスタ 2016

子どもたちに人気の科学フェスタが6月11日に、総合体育館で行われました。実験コーナーや製作コーナーは行列ができるほどの大盛況ぶりで、科学の不思議に魅了された子どもや大人が目を輝かせてさまざまな体験をしていました。親子で参加した濱野頼子さん(祇園町)は「昨年、定員オーバーで参加できないのがあったので、今年は再挑戦です。親子で全力で楽しめます」と意気込みを話していました。



地球相手の大掃除、今年で25年目

ラブアース・クリーンアップ 2016

6月12日、海岸線や遠賀川沿いなどのごみを掃除するラブアース・クリーンアップが行われました。これは、平成4年に行われた「ローマ・クラブ福岡会議 in 九州」を機にはじまった、全国規模の地域環境美化活動です。毎年、芦屋町でも住民や事業所、行政などが協力して行っており、今年も1092人が参加しました。途中、雨が降り出し、やむなく撤退したところもありましたが、皆で集めたごみは3030kgにも。おかげでとても美しくなりました。



日本人の美しいしぐさや身のこなし方

和室でのおもてなし講座

6月18日、和室でのマナーを学ぶ講座が芦屋釜の里で行われました。講師は小林君枝さん(小笠原流煎茶道教授)。玄関の上がり方やあいさつの仕方、手土産の渡し方、いすや座布団の座り方、蓋付きのお茶の出し方、飲み方など、和室でのマナーともてなし方を学びました。また、和室の建築部材の名称や茶道用語の解説もありました。知ってるようで知らない礼儀作法。体験すると自信が付き、日常生活で役に立ちそうです。

あなたの周りの出来事や
 身近な話題をお待ちしています

感謝の気持ちを花束に託して

役場、病院、鮮魚店など8か所を訪問

5月30日、愛生幼稚園の年長児たちがアジサイやユリなど季節の花を携え、役場を訪れました。これは、150年ほど前にアメリカではじまった「花の日」の行事で、花が多いこの時期に行われます。園児たちは家から持ち寄った花を手に、病気の人を見舞ったり、日ごろからお世話になっている近隣の商店や福祉施設で感謝の気持ちを伝えたりすることで、思いやりの気持ちや感謝の心を学んでいるとのこと。



仲良しチームでいっぱい楽しんだよ

2016 キッズスポーツフェスタ

町内の小学生たちの親睦を深めるキッズスポーツフェスタが6月4日、総合体育館で行われ、校区や学年を越えた混合チームなど29チーム132人が参加しました。小さな紙に3人が立ち、そこから足が出ない状態を5秒間保つバランスペーパーという競技では、互いにしがみ付いたり、背負ったりと仲良く悪戦苦闘。吉田愛琉さん(芦屋小学校)ら5人は、「勝ったり負けたりしたのに引き分けになったのがおもしろい」と話していました。

ご長寿夫婦、いつまでもお元気で

100歳おめでとう

満100歳を迎えた塩田福蔵さん(幸町)に、波多野町長からお祝い状などが贈られました。塩田さんは指物大工(家具職人)として国鉄に就職し、器用な手先で車の内装を手がけたそうです。その後、4人の子どもを育てるため、家族の大黒柱として家大工にもなり活躍されました。長生きの秘訣を伺うと、「妻と口げんかをしてストレスをためないこと」と笑って話され、妻のキミ子さんと一緒に仲の良い姿を見せてくれました。



念願のキッズ参加型マルシェを初開催

第1回アシア de マルシェ

6月4日、町民会館で30以上の店が集結した楽しさ満載のマルシェが行われました。芦屋町を元気にしたいという一心で、芦屋町出身の佐藤祐里佳さんが企画し、その呼びかけに永井真紀子さん(花美坂)も賛同。同じ子育て世代の皆さんにSNSや口コミで広めてもらったり、幼稚園などにチラシを配布してもらったりして実現したものです。見応え、遊び応えのあるマルシェに大勢の皆さんが笑顔で参加していました。